

「公共建築のこれから～とことん使う知恵～」

建物には、物理的寿命と社会的寿命があると言われていますが、我が国では、まだまだ使えるしっかりした建物が民間・公共を問わず、次々に解体されてきました。しかし、これからは、今ある資源をできるだけ長く使い持続可能な社会を維持することがすべての諸国の方針として求められてきます。京都議定書の批准国である我が国は、率先してCO2削減の努力をしなければならず、逆に世界に先駆けた「環境立国」を目指さなくてはいけない立場にあると言えます。欧米ではすでに当たり前のようにになっている、建物の「リノベーション」という再生の方法を使えば、今までないがしろにされていた建物が物理的にも社会的にも生き返り、私たちの日頃の新たな活動の場として活躍してくれることが知られています。

私たちが生活している世田谷区でも、学校やなどの公共施設の多くが、まだ物理的耐用年数を満たさないまま、次々に建替えられようとしており、毎年かなりの予算がそのために使われています。しかし、一方で、古くなった大学の建物を改修して再生したり、統廃合で使われなくなった学校の校舎を改修して他の使い方を始めた我が国の事例なども少しずつ紹介されるようになってきました。

このシンポジウムでは防災や公共投資縮減、省エネルギーの観点も踏まえながら、これからの公共施設のありかたや、これをいかに長く楽しく使ってゆくかについて、実際に経験された建築家やプロデューサーの方にお話しいただき、区長も交えて議論を展開しながら、市民と行政が連携する形で進めるべきこれからの方向を探っていきたいと思います。

(社)日本建築家協会関東甲信越支

部世田谷地域会

代表 小林正美